

雲

ウン



むかしのかんま

 云  
 (云)

はやわかりとまなとて

 もともとは  
 雲から  
 りゆうが  
 しつぽだす  
 かたち


雲くもの、もとの字は云ウン(云)。竜が、雲からしつぽをだしているかたちだよ。古代の中国の人は、雲のなかに竜がいると考えたんだ。  
あとになって、云ウンに雨アメ(あめかんむり)をつけて、雲ウンという字がつくられた。

12かへ

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

11かひのり

雲行き・入道雲・雲海・暗雲・星雲

(その)

園

エン

むかしのかんま

 園  
 (園)

はやわかりとまなとて

 なくなつた  
 せんぞの  
 おほか  
 園のもじ


園エンは、死者ししやをまつるおほかのある場所をあらわすかたちなんだ。  
袁エンと口カ(かこみ)からできている字だよ。袁エン(袁)は、死んだ人とおわかれするときのようすをあらわしている。

●袁(袁)のなりたち

死んだ人のえりもとに、丸い玉たまをおき、まくらもとはにわらじをおいたかたち。なくなつた人が、遠くへたびだつていけるようにしたんだ。

13かへ

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

11かひのり

花園・園長・公園・学園・動物園

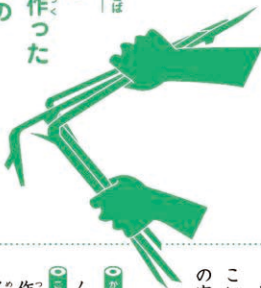


# 作

サク・サ

むかしのかん字

はやわかりとなえことは  
木のえだを  
おりまげ 作った  
手作りのもの



作つくの、むかしのかん字かんじを見てごらん。木のえだを手てでおりまげて、できたかたちだよ。これが、作つくになった。人ひとの手てで、ものをつくることをあらわしている。

人間にんげんがすることだから、さらに、そこにイい(にんべん)をつけて、いまの作つくの字じができたんだ。

かきしゅん 7かく

ノイゲヤ竹作作

ことばのけい

作り話つくりわ・手作りてづくり・作文ぶん・作者さくしや・工作こうさく・名作めいさく・作業さぎょう・動作どうさく

# 算

サン

むかしのかん字



はやわかりとなえことは  
竹たけのぼう  
ならべて  
かぞえて  
計算けいさんをする

はやわかりとなえことは



算さんを分解ぶんかいしてみよう。上うへは竹たけ(たけかんむり)。下したはもともと、「道具どうぐ」の具ぐという字じ。「竹たけでつくった計算けいさんの道具どうぐ」ということだね。

この計算けいさんぼうをならべて、数かずえることを算さんといった。

かきしゅん 14かく

ノムムムム竹竹竹竹竹算算算算

ことばのけい

算数さんず・算段さんだん・引き算ひきざん・足し算たしざん・計算けいさん・暗算あんざん・予算よざん

## 鳥

千ヨウ

はやわかりとまなま

よこむきに

とまった

すがた

鳥のもじ

むかしのかんま

鳥



鳥は、「とり」のすがたからできた字。

むかしのかん字を見ると、ひと目で鳥だとわかる。

とんでいるところではなくて、よこをむいて、とまったすがただね。

11かく

イ 戸 戸 血 鳥 鳥 鳥 鳥 鳥

むかしのかんま

鳥肉・鳥小屋・小鳥・白鳥・野鳥・一石二鳥

## 朝

千ヨウ

むかしのかんま

朝



日がのぼるのは、東だね。そして、西の空には、まだ月がうつつすらと見えている。

そんな明け方のけしきをあらわした字が、朝だ。

東の草原から日がのぼるかたちが車。ふりかえると、月がのこっているよ。

12かく

一 十 十 内 内 内 内 車 朝 朝 朝 朝

むかしのかんま

朝日・毎朝・朝食・朝礼・朝刊・王朝・今朝



はやわかりとまなま  
東のそうげん  
日がのぼり  
西のそらには  
月みえる朝

## 番

パン

はやわかり なるせうたは

もともとは

けものの

あしうら

順番の番

むかしのかんま



番<sup>バン</sup>という字は、けもの足のうらのかたちからできた。  
上の采<sup>さい</sup>が、けものつめて、下の田<sup>でん</sup>のかたちは、足のうらのふくふくしたところ。

けものがあるときには、足<sup>あし</sup>が、かわるがわる前<sup>まえ</sup>に出る。それで、番<sup>バン</sup>は、「順番<sup>じゆんばん</sup>」や「当番<sup>とうばん</sup>」など、かわるがわる番<sup>ばん</sup>につく、といういみにつかわれるようになった。

かきしゅん 12がく

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

〇このはのれい

番号<sup>ばんごう</sup>・番地<sup>ばんち</sup>・番組<sup>ばんぐみ</sup>・番組<sup>ばんぐみ</sup>・番人<sup>ばんにん</sup>・一番<sup>いちばん</sup>・当番<sup>とうばん</sup>・交番<sup>こうばん</sup>

## 父

ちち

フ

むかしのかんま



はやわかり なるせうたは

おの手に

はたらく

すがたの

父<sup>ちち</sup>のもじ

父<sup>ちち</sup>は、おの(まさかり)を手にもったかたちからできた字。

かん字をつくった人たちは、人のえらさをあらわすのに、おののかたちをつかった。リーダーのしるしだね。

📍「王さま」の王<sup>みぎみ</sup>や、「戦士」の士<sup>し</sup>も、おののかたちからできた字だよ。

かきしゅん 4がく

ノ ハジ 父

〇このはのれい

父親<sup>ちちいん</sup>・父方<sup>ちちかた</sup>・父兄<sup>ちちけい</sup>・父兄<sup>ちちけい</sup>・父母<sup>ちちぼ</sup>・祖父<sup>そふ</sup>・祖父<sup>そふ</sup>・神父<sup>しんぷ</sup>

野

十

野  
(野)

むかしのかんま

はやわかりとなえこぼ

野のものは

しばをかる山の

まもりがみ



野は、里(さとへん)と子(こ)に分けら

れるよ。

里は、土地の神にまもられた田んぼをあらわすかたち。子は、音をあらわすぶぶん。

野は、土地の神さまにまもられた原野をあらわした字だ。

むかしのかん字のかたちは野。あとから、いまのかたちの字ができた。

かきしゅん 11かく

一 口 日 甲 里 野 里 野 野 野

このほのけい

野原・野外・野草・野球・野生・  
平野・分野

友

とも

友  
州

むかしのかんま

ユウ

はやわかりとなえこぼ

手をにぎり

やくそく

かわす

友と友



友は、又と又とを組みあわせたか

たち。又は、右手のかたちなんだよ。

手と手をとりあつて、たすけあうことをあらわしている。

それで、「ともだち」のいみにつかわれる。

かきしゅん 4かく

一 ナ 友 友

このほのけい

友だち・友人・友好・友情・親友